

令和4年度 第1回帯広市男女共同参画市民懇話会 会議録

- 開催日時 令和4年11月29日（火）午後6時30分～午後7時30分
- 開催場所 市役所 10階 第6会議室
- 出席者 【委員】 岡庭会長、田沼委員、樽見委員
八巻委員、佐野委員、角谷委員、吉澤委員、伊藤委員
【事務局】 下野市民福祉部長、毛利市民福祉部地域福祉室長、
竹川市民活動課長、柴山市民活動課長補佐、柚原男女共同参画係長
秋元男女共同参画係主任補

■次 第

1 開 会

2 議 事

- (1) 第3次おびひろ男女共同参画プランの進捗状況について
- (2) その他

3 閉 会

■配布資料

- 資料1 第3次おびひろ男女共同参画プラン 令和4年度進捗状況報告書(令和3年度対象)
- 参考資料 広報おびひろ 11月号抜粋 帯広市パートナーシップ制度がはじまります

【事務局】

只今より、令和4年度、第1回帯広市男女共同参画市民懇話会を開会いたします。
はじめに、委員に異動がありましたのでご紹介いたします。

委員紹介

続きまして人事異動に伴いまして、事務局に異動がありましたのでご紹介いたします。

事務局職員紹介

本日の懇話会は、現在7名出席いただいております、1名遅れて来られると思います。
委員13名中7名の委員が出席し、市民懇話会設置要綱の規程により、会議が成立していることを報告します。

なお、本日の会議は、今の任期中の最後の懇話会となります。来年の2月まで任期がありますが、今年度は1回の開催予定でございますので、最後の懇話会ということになるかと思っております。
今後の取り組みの推進に向けまして、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思っております。

それでは、この後の議事進行は市民懇話会設置要綱により会長が議長を務めることとなっておりますので、会長をお願いいたします。

【会 長】

それでは最初に次第 2の議事に入ります。

本日の議事は、(1)第3次おびひろ男女共同参画プランの進捗状況と、(2)その他となっております。では最初に(1)について事務局より、ご説明願います。

【事務局】

第3次おびひろ男女共同参画プランの進捗状況について説明

【会 長】

ただ今の説明につきまして、ご質問やご意見等ございましたらお聞きしたいと思います。

私から質問ですが、審議会への女性の参画率ですが、充て職などが理由になっているというお話でしたが、最も女性の参画率の低い審議会について、今わかれば教えていただきたい。

【事務局】

帯広市防災会議と帯広市国民保護協議会の2つで、女性比率 11.5%と一番低い割合となっております

【会 長】

防災については、東日本大震災はもちろんですが、阪神淡路大震災のころから女性の視点というのが非常に大事だと言われていまして、市として女性の視点が反映されるような取り組みを進めていただければと思います。

他になければ、一旦、議事を進めてさせていただいて、後でまた、ご質問やご意見等をお受けしたいと思います。それでは、(2)その他について事務局からご説明ください。

【事務局】

参考資料「帯広市パートナーシップ制度」について説明

【会 長】

ありがとうございました。ただ今の説明について、ご質問・ご意見ありますでしょうか。

皆さんが作った制度であります。北海道では非常に早い取り組みだったと認識しております、これから他の町村も導入を検討していかないといけない問題もありますけれども、まずは最初の第一歩としてはしっかりとしたスタートを切れたのではないかと考えています。

委員の皆さんのお力によるものと思っておりますので、言い方はありますが誇りに思っていて良いと私は思っています。

委員の皆さんよりご意見やご感想など一言ずつお願いします。

【委 員】

私自身は多様な性に関して、全く無知な状態でこちらの会議に参加させていただきました。ただ、回数を重ねるうちに自分なりに他の方の意見を聞いて、ちょっとずつですが、自分なりにわかってきたと言ったら大げさかもしれませんが、意識するようになりました。

新聞で「帯広市パートナーシップ制度」という大きな記事を見て、これに携わったんだなど。先ほど誇りに思っていて良いとお話してありましたが、うれしいと言うか、達成感のような感じがありました。

少し前に芸能人の方が、夫婦が離婚しても一緒に住んでいるというニュースなど、そういうことも帯広市の取り組みと絡めて友達と話す機会があって、今まではそのような話しになった時に「私はわからない」と一歩引いていたけれど、ちょっと深い所で友達と話しをすることができて、自分なりに勉強になったのが良かったなと思っています。

【委 員】

とかちプラザであった多様な性の「パートナーシップ制度のある街・帯広」の講演では、みんなまで話し合う時間があって、結構長い時間だったけれど、前半は願いを持ってこのパートナーシップ制度を作るまでの、市役所の皆さんの努力が、「どんなにすごいものであるか」という表現

が良いかわからないけれども、あらゆる資料を駆使しながらその土地その土地の実感を吸収して、それを十勝の中の帯広だったらどう歩んで行ったら良いのかという、悪戦苦闘のお話のほんの一端を聞かせていただいて、改めてこの1・2年近い集まりの歩みの経過を知ることができて、私は参加して感動しました。

それぞれの生き方というものをどれほど大事に思うかという、一人ひとりの心持に訴えていくこの新しい制度だったのだと思うし、今、幼稚園も小学生も一人ひとりを大事にしたいという思いで、学校側も一緒に努力していくことに応えていくような受け皿の社会に、周りも育っていかねばならないなど。そういう少し世代の高い者たちの想いをどんどん変えていく使命もあるんだなと思えて、誰一人取り残されない社会を目指す第一歩が、十勝の中の帯広から始まったというのがすごく意味深く、十勝の中にそれぞれの思いで制度に取り組んでいく、制度化していく波が広がっていったらいいなと感じて帰ってきて、今日も参加させていただいています。

【委員】

私はたまたま川西農協の女性部の委員としてこの2年間の任期にここへ入ったわけですが、このパートナーシップという大きな制度の成り立ちに関わったというほどではないですが、流れを見ることができてとても良かったと思います。

色々新聞の記事に載ったり、先日は先生のコラムも拝見しました。この制度をもちろん立ち上げていく委員の意見もそうですし、私は今まで職員の方々と接することがあまり無かったですけど、市役所の職員の、そういうものを作っていきすごい力だなと、とても感心しました。感動というか素敵だな帯広市の職員と思いました。

この制度ができたからと言って、どんどん証明制度や登録制度に出てくる人たちがいるかどうかはわかりませんが、制度に登録したいと思っても二の足を踏んでいる人たちもたくさんいるかもしれませんが、この制度があると無いとではその人たちは全然違うと思うんです。

その方たちも心強い制度だなと思っていると思うんです。私も2年でまもなく終わりますけれども、これからも記事とか制度とか、ずっと気にかけていきたいなと思いました。本当に2年間ありがとうございました。

【委員】

私も帯広市PTA連合会というところから出向という形でこちらの会議に参加させていただいて、そのたまたまといったら言い方が悪いですが、パートナーシップ制度の制定にあたっての懇話会に、去年1年間皆さんと一緒に4回に亘る会議に参加させていただいて、すごい沢山勉強させていただいたのと、それを経てこうして12月からものすごく良い制度ができあがって、その一端ではないですけど、少しでもお力になれたのかなと思うと、ものすごく光栄だなと感じています。

ちょっと論点ずれてしまうのですが、翔陽中学校は今年度から男子学ランを廃止したんです

ね。それで、女子はブレザーとスカートだったんですが、同じデザインのスラックスを導入しまして、制服が男女共用になったんです。それで、先日文化祭で学校に行く機会がありまして、その時に女子学生さん1年生なんですが、何人かスラックスを穿いている女の子、見た目が女の子の生徒さんがいらっやって、すごい良いなと思ったんです。素敵だなと思ったんです。見た感じ男の子だなという子で、スカート穿いている子は見かけなかったですけど、心の性がどうであれ、誰がスカートを穿いても良い、誰がズボンを穿いても良いというのが、こうしてもっと当たり前な社会になったら良いなとすごく感じて、それがゆくゆくはこういう多様性、ジェンダーすら関係のない多様性というのが当たり前な世の中になってくれたら良いなということを楽しみ感じることがありました。

【委員】

これを見て道内ではかなり進んでいるというか、先進的というか、そういう帯広ということに素晴らしいなということを感じて、そういうことやってる、これよいしょではないですけども、市の担当者は相当苦労されたのではないかと感じを持ち、そういう意味で敬意を表すると同時に、別の話しになりますけれども、先ほど出ていた「市の管理職に対する女性の割合」これがこういうパワーのある市の職員がいるなら、もっとこっちの方でも上げてもらうことはできないのかという感想を持ちました。

【委員】

私としては現場にいるので、実際に悩んだり性転換したりした子を知っていますので、そういう子が一回札幌に出てこの十勝に戻ってきてパートナーと一緒に生活したりという話を聞いている中で、こういった制度がようやくスタートするところでは、そういう人たちが住みよい帯広になって受入やすく十勝が活性化してくれたら良いなと思っていますけれども、やはり先ほど翔陽中の学ランが無くなった、男女一緒になったというような、そういう小さいところから変わっていかないと、そういった社会が築けないんだらうなと思うんですね。やっぱり思春期の子たちって、そうじゃなくても自分の性とか自分に対しての混乱が起きる時なので、そこを大事に育てていくことが大事なんだらうなと。

あとは、年齢の上の人たちって言うのは、なかなか固定概念が結構あるので、そこをどう崩していくのかというか、新たに塗り直していくというか、そういう作業と両人なんだらうなと改めて今日思いました。

【委員】

(本日の参考資料の)大変わかりやすいこの「パートナーシップ制度がスタート」、これに関わられて、うれしかった、よかった、素晴らしいですけども、このままだと紙だけで終わっちゃうので市民に対する認知というか、これからそれが一番必要なと思います。できてうれしい・終わりではなく、ありますよってどっか出ていかないといけないと思うし、(男女共同参画プラ

ン) これ期限ありますよね、あと何年で。後で直さなければいけないところきっとあると思うので、私は今日で終わりですがよろしくお願ひしますという気持ちです。

【会 長】

ご指摘ありましたように、これをどう運用していくのか、育てていくのかというのは、市役所だけではなくて、帯広市民全員に求められていることなんだろうと思います。この会議にて、このあとどのようになっていくのかというのを、次の委員の皆さんたちにはぜひお願ひしたいと思ひます。

全体を通してご意見・ご質問等ありますでしょうか。

事務局から何かありましたらお願ひいたします。

【事務局】

部長お礼挨拶

【会 長】

委員の皆さま、2年間本当にお疲れさまでした。やはり私たちの取り組みの中で一番大きな一つの結果がパートナーシップ制度だったと思ひますが、色々ご意見があったように、パートナーシップ制度だけが私たちが取り組んでいくことでは無いと思ひております。

大きなミッションとしては、生きづらさを感じている方々の困難さというものを一つでも取り除いていく、解決していくということが、おそらくこの会議の目的だったろうと思ひています。その意味では、パートナーシップ制度というものを提言書としてまとめて、市役所の皆さんのお力を借りてこのような形になったことはとても良かったなと思ひているところです。

私は、この学びは学校のようなものだというように捉えていて、色々なものを学んでそして先導していくという、そういった場であったというように思ひています。

私も任期が終わりますけれども、皆さんそれぞれ持ち場で男女共同参画そしてパートナーシップ制度のいわゆる理解者・施政者としてご活躍いただき、周りに多くの理解者を増やしていくような取り組みを今後もしていただければ、結果、帯広市はすばらしい街になっていくだろうと確信しています。

私自身は、本当に30代からこの男女共同参画に関わっていますが、新しい世代、新しいパートナー、新しいチームの皆さんで、新しい帯広市を作っていくことをころから応援しております。

以上をもちまして、本日の懇話会を終了いたします。